

防衛省陸上自衛隊情報学校より感謝状をいただきました

8月1日、先進防災技術連携研究センター伊勢正研究統括が、防衛省陸上自衛隊情報学校より感謝状をいただきました。この感謝状は、令和5年から令和7年にかけて行った防災科学関連技術の最新動向に関する講義が学生の質的向上に多大な貢献をしたこと、日ごろから防衛基盤の育成に尽力したことに対して贈られたものです。



感謝状を持つ伊勢正研究統括（左）と陸上自衛隊情報学校 第1教育部長 小澤学1等陸佐（右）

佐藤研吾主任研究員が2025年度日本雪氷学会技術賞を受賞しました

極端気象災害研究領域 雪氷防災研究センターの佐藤研吾主任研究員が、2025年度日本雪氷学会技術賞を受賞しました。日本雪氷学会技術賞は、雪氷技術の発展に貴重な貢献となる研究または開発を行った個人あるいは団体に贈られる賞です。佐藤研吾主任研究員が取り組んできた、着雪実験技術の開発とそれらの着雪対策への応用が、着雪研究の発展と社会実装に多大な貢献を果たしてきたとして評価されたものです。

【受賞理由】

着雪実験技術の開発とそれらの着雪対策への応用



賞状を持つ佐藤研吾主任研究員

田邊章洋特別研究員が2025年度日本雪氷学会平田賞を受賞しました

極端気象災害研究領域 雪氷防災研究センターの田邊章洋特別研究員が、2025年度日本雪氷学会平田賞を受賞しました。日本雪氷学会平田賞は、雪氷学の研究に顕著な成果をあげ、今後の発展を奨励することが適当と考えられる個人に贈られる賞です。田邊章洋特別研究員が取り組んできた、数理科学を背景とした雪氷現象の解明と災害研究への適用が、雪氷学の研究に顕著な功績をあげ、今後のさらなる発展を奨励することがふさわしいとして評価されたものです。

【受賞理由】

数理科学を背景とした雪氷現象の解明と災害研究への適用



賞状を持つ田邊章洋特別研究員

中村一樹センター長が令和7年防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞しました

極端気象災害研究領域 雪氷防災研究センターの中村一樹センター長が令和7年防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞しました。

【功績の概要】

氏は、気候変動に伴う降積雪の量的、質的な変化と高齢化等の社会情勢の変化により変容している雪氷災害に対応するため、令和7年冬の青森県の豪雪災害のような大きな豪雪災害が発生した際に、多様な機関が参画したチームを組織して自らが中心となっていち早く現地調査を実施し、災害対策に資する情報提供を自治体や市民等に行いながら、それに対するフィードバックを得て行う共創研究の体制を構築し、気候変動下の豪雪災害対策研究を推進した。

氏は、スマホAI路面判定システムの開発をはじめとする環境変化に適応した克雪技術の開発研究を中心的に実施した。同システムは、青森県をはじめ、北海道、東北、北陸地方の多数の自治体に試験運用エリアが広がっており、首都高速道路等の道路管理者でも実証試験が開始されている。（内閣府令和7年防災功労者内閣総理大臣表彰の受賞者決定についてより）



表彰状を持つ中村一樹センター長

青井真研究領域長が令和7年防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞しました

巨大地変災害研究領域の青井真研究領域長が令和7年防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞しました。

【功績の概要】

氏は、平成7年阪神・淡路大震災以降、防災科学技術研究所において一貫して全国規模の地震津波観測網の構築に携わり、世界最高レベルの観測網の実現と運用を牽引している。また、南海トラフ海底地震津波観測網N-netの整備を統括し令和7年6月に完成させ、南海トラフ巨大地震の想定震源域の西半分に残されていた観測の空白域を解消することに大きく貢献した。これらは、陸海統合地震津波火山観測網MOWLASとして、緊急地震速報・津波警報・震度情報をはじめとする官民の防災情報を支えている。また、地震調査研究推進本部の政府等の委員会に参画するなど防災行政に資する取り組みに尽力した。（内閣府令和7年防災功労者内閣総理大臣表彰の受賞者決定についてより）



表彰状を持つ青井真研究領域長

ICKII2025においてBest Conference Paper Awardを受賞しました

社会防災研究領域 防災情報研究部門の白石悠広特別研究員と臼田裕一郎研究領域長がIEEE Tainan Section Sensors Council (IEEE TSSC) が主催する8th International Conference on Knowledge Innovation and Invention 2025 (ICKII 2025、2025年8月22日から24日開催)において、Best Conference Paper Awardを受賞しました。この賞は、ICKII 2025の委員会が、本学会で発表された研究発表の中から特に優れた論文について評価し表彰するものです。

【受賞タイトル】

Development of a Building Damage Extraction and Mapping Technique from Ground-Level Images Using Visible Remote Sensing Indices and Edge Angle Dispersion



賞状を持つ白石悠広特別研究員（左）と臼田裕一郎研究領域長（右）

2025年2月上旬の帯広における記録的なドカ雪はなぜ起きた？～黒潮起源の海の渦がもたらした海洋熱波と気象条件の複合効果を解明～

防災科研 雪氷防災研究センター、立正大学、北海道大学大学院の研究グループは、2025年2月上旬に北海道の帯広で発生した記録的な短期間降雪（いわゆるドカ雪）が、黒潮起源の暖かい海水を伴う海の渦に起因する海面水温の異常高温『海洋熱波』と気象条件の複合効果によって生じたことを解明しました。

詳細はこちら



その他のお知らせは公式サイトでご覧いただけます

- 損害保険料率算出機構と防災科学技術研究所 電（ひょう）災リスク評価に関する共同研究契約を締結
- 十勝岳における実証実験（登山者動向把握実験）「十勝岳チャレンジ2025」を実施～登山者を想定した火山防災上の取り組みに取得データを活用～
- 海底ケーブル地震観測網DONETの温度計で100km以上にわたって同期する海洋波を検出
- 令和6年能登半島地震を対象とした「自治体の災害対応および応援受援活動の全国調査」データ提供の開始について

詳細はすべてこちら



つくばちびっ子博士2025 防災科研サマーラボ

防災科研は8月4日から8日までの5日間、「つくばちびっ子博士2025」の一環として「防災科研サマーラボ」を実施しました。初の試みとなる本プログラムでは、「防災島に眠る秘宝」を探す冒険ワークショップや、ペットボトルを活用した地震計作りなどを通して、防災科学を楽しく学べる内容を用意しました。対象は小学生・中学生で、連日多くの親子連れにご参加いただきました。



謎解き防災アドベンチャーの様子

令和7年度こども霞が関見学デー

8月6日から7日に実施された「こども霞が関見学デー」に出展しました。防災科研のブースでは、「雪や氷の秘密を探ろう！～雪の重さの変化を体感しよう！～」をテーマに、雪の重さを体感できる雪かきバスケットや雪結晶しおり作りなど、雪氷を中心とした展示を行いました。約1350人が来場され、多くの方に楽しんでいただきました。



防災科研のブースの様子

令和7年度 第1回 災害レジリエンス共創研究会開催

8月19日、「日・ASEANの防災力強化を目指した産学官連携の新たな展望～共創が拓く、レジリエントな地域社会の将来～」をテーマに、令和7年度第1回災害レジリエンス共創研究会を開催しました。本研究会では、産学官の関係者に加え、海外からの参加者も交え、日本とASEAN地域における防災力強化に向けた連携の可能性や、その実現に向けた新たなアプローチについて活発な意見交換が行われました。



会場の様子

ぼうさいこくたい2025in新潟

語り合い・支え合い～新潟からオールジャパンで進める防災・減災～ ブース展示「防災科研の取り組み」

9月6日から7日の2日間、朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンターを会場に「ぼうさいこくたい2025 in新潟」が開催されました。防災科研は、地元・新潟の雪氷防災研究センターを中心としたブース展示を行い、来場者にセンターの研究・活動を紹介しました。また、併催のセッションでは、雪氷防災研究センターの中村一樹センター長、企画部の松浦象平次長、社会防災研究領域の臼田裕一郎研究領域長、極端気象災害研究領域の酒井直樹副研究部門長、さらには先進防災技術連携研究センターから伊勢正研究統括と飯田真知子特別技術員がそれぞれのプログラムで登壇しました。



伊勢正研究統括・飯田真知子特別技術員の登壇の様子

みんなで学ぶ防災教室「地震のそなえ」を開催

9月21日、防災・減災イベント「みんなで学ぶ防災教室『地震のそなえ』」を、ガールスカウト日本連盟との共催で開催しました。対面とオンラインのハイブリッド形式で行い、講師は社会防災研究領域の上田啓瑚特別研究員が務めました。地震のメカニズムや、災害に備えるための行動について分かりやすく説明しました。

筑波会議 2025 防災科研主催セッション「アジア太平洋地域の新興メガシティにおける都市防災のスケールアップ：研究・政策・ビジネスの視点から」

10月1日から3日に開催された「筑波会議2025」において、10月2日に防災科研の国際課が主催したセッションが実施されました。セッションのタイトル「アジア太平洋地域の新興メガシティにおける都市防災のスケールアップ：研究・政策・ビジネスの視点から」に基づき、防災科研からは、都市空間耐災工学研究領域の西岐汰研究員、社会防災研究領域の辻岡綾研究員が登壇し、発表しました。加えて、マレーシア、フィリピン、タイからの研究者や行政官を登壇者としてお迎えし、当地域の急速に変化する都市環境における防災・減災をテーマに、研究のみならず、行政、国際機関、民間企業など、多様な視点から議論を深めました。



第27回図書館総合展フォーラム

「『忘れない』を仕事にする― 図書館・学校・地域で活かす《災害アーカイブ》」

10月23日、防災科研 自然災害情報室は、第27回図書館総合展においてフォーラム「『忘れない』を仕事にする― 図書館・学校・地域で活かす《災害アーカイブ》」を開催しました。本フォーラムでは、災害の記憶の風化を防ぎ、「忘れない」を形にする具体的な方法として、信州大学での災害アーカイブの構築・活用事例や、防災科研の取り組みを紹介しました。これにより、図書館、学校、地域が連携して災害伝承や防災教育を推進するための実践的な方策を共有しました。



特許権を取得しました

「道路状況判定装置、道路状況判定プログラム、及び、道路状況判定方法」「時間領域フィルタ装置、計測震度概算装置、計測震度概算システム及び時間領域フィルタ方法」の特許権を取得しました。

詳細はこちら



防災科研 令和7年度成果発表会

参加無料

『オールフェイズに対応した防災科学技術』

～人と社会の安全保障への貢献～

2026年2月25日(水) 13:00～17:00

東京国際フォーラム ホールB5 (会場参加／オンライン視聴)

2026年1月中旬より参加申し込み開始予定

※詳しくはWebページをご覧ください。

<https://www.bosai.go.jp/info/event/2025/seika/>



令和6年度成果発表会の様子